

マニュアルの伝達方法

確認と意思統一による作業内容の同一化

農場内での作業は大規模化するほど分業化されることが多くなります。特にフリーストールシステムではその傾向は顕著です。酪農作業は時限的で、複雑で、経済的に影響力が強い作業が随所にあるので、ミーティング（報告・協議・指示・伝達など）を行い、互いに確認・意志統一しあうことが重要です。そのことで夫婦や親子や労使間で、作業内容が同一化されます。

毎日の手慣れた作業の中にも、“ついうっかり”による小さなミスや大きな事故が発生します。

毎日あるいは定例のミーティングをすることにより、ミスや事故を未然に、あるいは最小限に回避することができます。



別海町酪農研修牧場の事例

文書化及び図表化

言葉による伝達だけでは完全ではありません。特に複雑な作業が交錯してくるとミスを起こしやすくなります。

農場での1日の作業スケジュールや単一作業のマニュアルを文章化したり、図表化することにより安全性や安心感が倍加します。特に作業者の多い大規模農場



では必要です。

飼料給与量の表示

時間	成牛管理・育成管理・分娩、子牛管理	備考
	【男】1人 【女】2人	●必要に応じ時間延長有り
【5:00】	前洗浄、除糞、飼寄、配合 搾乳・清掃 ★搾乳終了後⇨バーンクリーナー ★育成舎の飼給与・除糞	●授精・分娩・治療など 【モニター】 ※発情チェック ※子定牛（周期毎） ※分娩後20日後 ※分娩チェック
【6:30】	①小学生のいる方・休憩	※子定牛（10日前から）
【7:00】	②女性休憩	※体温測定
【7:30】	※作業終了	※健康チェック
【8:45】	主任出勤	※基礎飼料、配合飼料
【9:00】	男性出勤・①女性出勤	※反芻、（水量）
【9:30】	②女性出勤	※被毛
	★飼給与・ベット管理・牛体手入 清掃などゆっかりと！	※糞 ※怪我 ※デコンディション（月1回）
【11:30】	※作業終了	★牛体手入れで、特に汚れのひどい牛は、洗うこと。 （ブラシで部分洗い）
【12:00】	主任休憩 〈休憩〉	※尻、美貌
【13:30】	主任出勤	
【14:30】	男性出勤	
【15:00】	女性出勤	
【16:30】	搾乳・清掃 ★搾乳終了後⇨バーンクリーナー	
【18:30】	※退社前ミーティング(15分間) ※分娩・発情・治療牛の内容 飼給与等の報告、引継ぎ ○ 毎日・確実に行うこと	
20:00	※乳牛チェック 発情、分娩、健康状態 及び 飼寄せ補給、除糞 見回り 育成牛は発情、健康状態 及び 飼寄せ補給 ★異常な時は、その都度⇨主任に報告・確認	

★研修時間は厳守すること、研修開始5分前には出勤すること。

★獣医、授精師、普及員等が帰る時は、必ず「ご苦勞様でした・有り難うございました」

番号や色での識別化

規模が大きくなるほど、牛を番号だけで識別することは困難になります。そこに色や図形を組み合わせることによって、識別がより明確になります。

- ・ペイントチョークやカラースプレーによる識別と図形化（○×など）
- ・マジックテープやビニールテープでの識別

記帳のマニュアル化

台帳やホワイトボードを活用して、管理記録や気づいたことを記帳します。発情牛や疾病牛の確認や作業内容の伝達などに有効です。



ホワイトボードによる伝達

作業効率を高める農場レイアウト

施設設備の配置で重要なことは作業動線（人・牛・機械）と農場を取り巻く環境です。これらを考慮した効率的な農場レイアウトについて考えてみましょう。

農場レイアウトの考え方

施設配置	省力的で、労働効率が良い	
環境的な考慮	人にとっての労働環境	働く人の安全性、働きやすさ
	牛にとっての環境	気象変動からの保護、防疫 換気、快適性
	農場周辺の環境	空気・土壌・水を汚さない（排水等）、 騒音・臭い・ホコリを出さない、景観を整える

農場レイアウトは、人にも牛にも環境にも優しいことが大切です。

新たに施設を建設する場合、レイアウトは比較的自由になります。その場合、作業動線を考慮することで省力化、効率化が図れます。

また、環境面を考慮することで、作業の安全性、快適性や生産性の向上につながります。この際、将来の増築も考慮した配置とすることが大切です。

農場レイアウトのポイントの例

- 立地条件を検討する
(例. 風向き、日射、排水、水や電気の供給など)
- 関連施設との距離は移動距離を最短にし、かつ、換気や日照、排水などを妨げない
(例. 牛舎と飼料貯蔵施設、ほ育施設と調乳室などの距離)
- 作業導線は一方通行で、重複しない、行き止まりを作らない
(例. TMRの場合のサイロと飼料庫と給餌施設などの流れ)
- 一緒にできる作業は統合する
(例. ほ育施設の観察の機会が多い場所への設置)
- 安全性（バイオセキュリティなど）を考慮する
(例. 給餌動線と糞尿処理動線の分離、訪問者の出入り口など)

既存施設での作業動線の見直し

既存の施設でも作業動線を見直すことで作業の効率化を図ることが可能です。

移動距離を短くする

- 使用頻度の高い器具、備品は牛舎内に複数配置します

作業動線の重複を省く

- 作業の順序を変えることで効率化できる作業がないかを検討します
- 作業者が交錯する動線はできるだけ少なくします
- 資材の運搬作業は、無理のない量を最少回数で運ぶように検討します

作業動線の見直しで期待される効果

- ① 体力的な負担軽減
- ② 時間の短縮
- ③ 頭脳労働に向ける時間の創出
(経営、記録記帳、牛群のモニター、データ分析など)
- ④ 精神的負担の軽減